

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	松尾63号線歩道整備事業	会計	一般会計	事業No.	576	施策順No.	44-010
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-2-3-11-6		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	44 交通機関と道路の充実		事業期間	開始	20	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	歩行者及び通過車両					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	歩行者数: 人/日						
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		1000	1000	1000	1000	1000		
		自動車交通量: 台/日	2400	2400	2400	2400		2400
意図	歩車道を分離することにより、安全が確保される。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	進捗率: % (当年度までの実施済額/全体事業費×100)		11	33	60	57	100	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		平成22年度は市立緑ヶ丘中学校グラウンド施設の移設補償に伴い、飯田市教育委員会が移設工事を発注落札金額が決まった後、公共補償契約を締結したところ補償費が安価となったため目標実績に及ばなかった。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	・国道交差点から緑が丘中学校までの市道63号線は、国道のバイパス道路として朝晩の通過交通量が多く、保育園児から高校生までが通学路として利用している。 現道には、歩道が無いため、歩行者と車両を分離することにより安全な通学路を確保する。 L=800.0m W=7.5m		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1道路改良工事 2物件補償	1 道路改良延長 2 電柱移転補償 3 物件補償	1 L=209m 2 NTT6本 中電1本 ケーブルTV1式 3 1式
23年度実施計画	1道路改良工事	1 道路改良延長	1 L=150m

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)地域活力基盤創造交付金(5.5/10)21,835千円 (国)社会資本整備総合交付金(活力創出基盤整備)(5.5/10)30,360千円 (そ)繰越金 21→22繰越明許費 39,700千円
	国庫支出金		52,195	52,195	13,750	
	県支出金					
	起債					
	その他		17,865	17,865		
一般財源		24,847	24,847	11,250		
計(A)		94,907	94,907	25,000		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)				0		
トータルコスト A+B			94,907			

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・松尾自治会の重点要望事項として、強い要望が出されている。 ・地元住民から、早期完成が望まれている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、財産、事業者が便利で安全に移動ができる。	施策の成果指標又はムトス指標	市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路):%
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	平成20年度から当事業に取り組み、3年間で全延長の80%を完成し随時完成区間を供用開始し、歩行者の安全確保に役立っている。		
	後期に向けた課題	平成23年度完了予定。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしましたか	4年間の振り返り	当初5年計画で完成させる予定であったが、早期に安全利用が出来るように4年で完成するようにした。		
	後期に向けた課題	平成23年度完了予定。		
コストを削減するためにどのような工夫をしましたか	4年間の振り返り	工事計画年度短縮による集中投資(5年計画の工事を4年間で完成予定としたこと)と、水道工事等関連工事と一括して工事発注を行った。 自由勾配側溝を土留め構造物と併用の土留型自由勾配側溝とし、コストの削減を図った。		
	後期に向けた課題	特になし		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市道の歩道設置工事であり、受益者負担、市の関与は検討の余地がない。工事説明会等の地元の取りまとめは地元役員にお願いしている。		
	後期に向けた課題	特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	事業主体は飯田市。		
	後期に向けた課題	特になし		
全体を通じて	4年間の振り返り	緑ヶ丘中学校から国道交差点の区間、すでに80%歩道が設置出来、中学生等の歩行者が安全に通行できている。また、事業着工から4年での完成予定は集中投資により早期事業効果の發揮となっている。		
	後期に向けた課題	平成23年度完了予定		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input checked="" type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
--	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------